

小児科定点医療機関における内科標ぼうの有無による 報告患者年齢構成の違いについて

フナヤマ カズシ タシロ ヨシコ トビタ コ ダンギ トミエ
船山 和志*1 田代 好子*2 飛田 ゆう子*3 段木 登美江*3
タカイ アサミ ウエハラ サナエ アゼガミ エイジ ミズノ テツヒロ
高井 麻実*3 上原 早苗*4 畔上 栄治*4 水野 哲宏*5

目的 感染症発生動向調査事業における小児科定点医療機関（以下、小児科定点）からの報告において、内科標ぼうの有無による患者の年齢構成の違いを検証した。

方法 横浜市における小児科定点から報告された感染性胃腸炎患者の年齢構成を、全小児科定点および小児科定点のうち、小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）において、内科標ぼうの有無でそれぞれ比較した。

結果 全小児科定点と小児科定点のうち、小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）のどちらにおいても、内科標ぼうの有無で年齢構成に有意な違いがみられた。

結論 地域によって内科標ぼうのある小児科定点の割合が異なる可能性が考えられることから、全国や地域間における患者の年齢構成の比較や、年齢ごとの罹患数を推計する際には、定点の内科標ぼうの有無についても考慮する必要があると考えられた。

キーワード 感染症発生動向調査, 小児科定点医療機関, 内科標ぼう, 年齢構成

I はじめに

わが国の重要な感染症対策の一つとして、感染症発生動向調査事業¹⁾があり、その中の定点把握疾患で最も多いのが小児科定点把握疾患（11疾患）である²⁾。それらは小児科定点医療機関（以下、小児科定点）からの毎週の報告に基づいて集計、報告されているが、国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱では、小児科定点について「小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定すること」としか定められていない²⁾。そのため、実際の小児科定点は、小児科単科や、小児科以外にも内科などの他の診療科を標ぼうする施設が混在している。その中でも、内科を標ぼうしている施設としない施設では来院する患者の年齢層が異なること

が考えられ、報告患者の年齢構成が異なることが考えられるが、著者らが検索した範囲内では、それらを検証した報告はなかった。そこで今回、著者らは小児科定点における内科標ぼうの有無が、報告された患者の年齢構成に与える影響について検討したので報告する。

II 方法

(1) 対象および分析方法

横浜市の小児科定点数は92施設であるが、2013年途中に1つの定点の医療機関変更があったため、2012年から2013年にかけて2年間連続で小児科定点であった91施設を分析対象とした。これらの施設から2年間に報告のあった感染性胃腸炎患者の年齢構成を、内科標ぼうの有無で比較した。感染性胃腸炎患者を年齢構成の比較

* 1 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課長 * 2 同嘱託職員 * 3 同薬剤師 * 4 同係長

* 5 横浜市衛生研究所長

に用いた理由は、小児科定点疾患のうち、最も小児も成人にも罹患しやすい疾患であると考えたからである。また、統計学的検出感度を上げるために2年間分の患者報告を用いた。

次に、小児科定点報告を基にした罹患数推計（年齢階級別罹患数推計を含む）を行うために永井ら³⁾が用いている、より詳細な医療施設特性の分類（①病院の小児科、②小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）、③小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科以外））に従って、対象の91施設をNESID（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease：感染症サーベイランスシステム⁴⁾）に登録された定点情報をもとに分類した（表1）。このうち、最も施設数が多く、感染症発生动向調査事業実施要綱の小児科定点要件に適合していると思われる、②小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）から

2年間に報告のあった感染性胃腸炎患者の年齢構成を、内科標ぼうの有無で比較した。統計学的検定には χ^2 検定を用い、有意水準は5%をもって有意差ありとした。統計ソフトはSPSS 21.0を用いた。

(2) 倫理的配慮

分析に用いた定点医療機関からの感染性胃腸炎患者報告データは、週ごとにまとめられた性、階層化された年齢ごとの患者数であり、患者を特定するような情報は含まれておらず、データは統計的に処理した。また、このデータは感染症情報の収集と提供を行う横浜市地方感染症情報センター⁵⁾の役割を担う横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課に収集されたデータを用いており、分析は感染症・疫学情報課内ですべて行った。

Ⅲ 結 果

(1) 全小児科定点における、内科標ぼうの有無別報告患者年齢構成について

結果を表2および図1に示す。小児科定点からの感染性胃腸炎患者の年齢構成は、内科標ぼうの有無によって有意 ($P < 0.01$) な違いがあり、内科標ぼうのある定点からの報告の方が、内科標ぼうのない定点からの報告に比較して年齢の高い患者が多く、年齢の低い患者が少なくなっていた。

表1 小児科定点の医療施設特性と内科標ぼうの有無別施設数 (n=91)

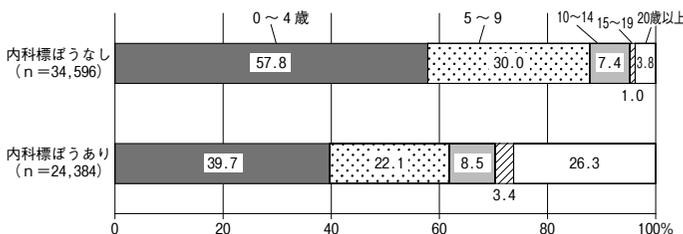
	総数	内科標ぼうの有無	
		あり	なし
小児科を有する一般診療所 (主たる診療科が小児科)	80	26	54
小児科を有する一般診療所 (主たる診療科が小児科以外)	10	10	-
病院の小児科	1	1	-

表2 全小児科定点における、内科標ぼうの有無別報告患者年齢構成

(単位 人、() 内%)

	施設数	報告患者数						χ^2 検定
		総数	0~4歳	5~9	10~14	15~19	20歳以上	
内科標ぼうあり	36	24 384 (100.0)	9 691 (39.7)	5 393 (22.1)	2 061 (8.5)	830 (3.4)	6 409 (26.3)	$P < 0.01$
内科標ぼうなし	55	34 596 (100.0)	20 013 (57.8)	10 364 (30.0)	2 572 (7.4)	336 (1.0)	1 311 (3.8)	

図1 全小児科定点における、内科標ぼうの有無別報告患者年齢構成



(2) 小児科定点のうち、小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）における、内科標ぼうの有無による報告患者の年齢構成について

結果を表3および図2に示す。小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）からの感染性胃腸炎患者の年齢構成は、内科標ぼうの有無によって有意 ($P < 0.01$) な違いがあり、内

科標ぼうのある定点からの報告の方が、内科標ぼうのない定点からの報告に比較して年齢の高い患者が多く、年齢の低い患者が少なくなっていた。

Ⅳ 考 察

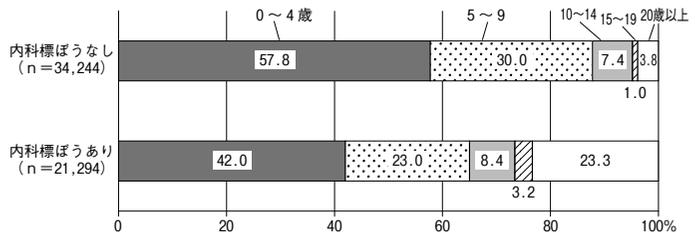
本調査では、小児科定点全体だけでなく、より詳細な医療施設の特性で分類された区分である、小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）においても内科標ぼうの有無によって患者年齢構成が異なることが明らかになった。地域によって内科標ぼうのある小児科定点の割合が異なる可能性が考えられることから、全国や地域間における患者の年齢構成の比較や、年齢ごとの罹患数を推計する際には、定点の内科標ぼうの有無についても考慮する必要があると考えられた。しかし、実際には各定点の内科標ぼうの有無については現在データベース化されておらず、それぞれの自治体が各医療機関の標ぼう科目を個別に調べる必要があるため、今後のNESIDに登録する定点医療機関の情報の改善が重要だと考えられた。ただ、今回の調査では横浜市の限定された2年間における感染性胃腸炎報告の患者年齢構成しか検討しておらず、今後は性別などの他の要因も含めて全国的に多くの定点疾患について検討する必要がある。また、今回の研究では小児科定点疾患のうち最も小児も成人にも罹患しやすい疾患であると考えて感染性胃腸炎を対象としたが、感染性胃腸炎という診断名はノロウイルス、ロタウイルスやカンピロバクテラ等多種多様な原因によるものを包含する症候群⁹⁾であり、地域間の比較を行う際には、分析対象とする期間に流行した原因の地域差や特性も考慮する必要があると考えられた。

表3 小児科定点のうち、小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）における内科標ぼうの有無別報告患者年齢構成

(単位 人, () 内%)

	施設数	報告患者数						χ ² 検定
		総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20歳以上	
内科標ぼうあり	26	21 294 (100.0)	8 946 (42.0)	4 901 (23.0)	1 787 (8.4)	690 (3.2)	4 970 (23.3)	P<0.01
内科標ぼうなし	54	34 244 (100.0)	19 778 (57.8)	10 284 (30.0)	2 538 (7.4)	333 (1.0)	1 311 (3.8)	

図2 小児科定点のうち、小児科を有する一般診療所（主たる診療科が小児科）における内科標ぼうの有無別報告患者年齢構成



文 献

- 1) 厚生労働省. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律.
- 2) 厚生労働省. 感染症発生動向調査事業実施要綱.
- 3) 永井正規, 橋本修二, 川戸美由紀, 他. 補助変数を用いた罹患数の推計方法. 「国際的な感染症情報の収集, 分析, 提供機能およびわが国の感染症サーベイランスシステムの改善・強化に関する研究」平成23年度総括・分担研究報告書, 2003: 219.
- 4) 厚生労働省ホームページ. 関連用語集. 感染症サーベイランスシステム (NESID) (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakaku-kansenshou04/02-06.html>) 2014.9.29.
- 5) 横浜市地方感染症情報センターホームページ. (<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>) 2014.9.29.
- 6) 国立感染症研究所ホームページ. 感染性胃腸炎. (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/383-intestinal-intro.html>) 2014.9.29.